

令和7年度 第2回
静岡市葵区地域包括支援センター運営部会 次第

日時：令和8年2月18日(水)14:00～16:00

会場：城東保健福祉エリア複合棟3階研修室

1 開 会

2 挨 拶（葵福祉事務所高齢介護課長）

3 部会長挨拶・委員の自己紹介

4 議 題

（1）令和7年度 重点項目に関する活動報告と委員からの意見、提言

（約80分間・各包括6分程度）

（2）令和7年度 地域包括支援センター運営部会報告に関する意見交換（約20分間）

①地域におけるネットワークの活用状況について

②今後に向けた課題・意見等

③次年度の取組み・地域包括支援センターへの期待等について

5 連絡事項

6 閉 会

令和 7 年度 葵区地域包括支援センター運営部会

重点項目シート

令和7年度 葵区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市葵区（城西）地域包括支援センター	職員	配置人数(定員:5人)(4/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	医療法人社団盈進会		主任介護支援専門員	0人	社会福祉士	3人	保健師 看護師等	1人	その他

テーマ：地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】	①自立支援プラン型地域ケア個別会議	4回	
	②ケース対応型地域ケア個別会議	4回	(第2回部会 開催時点)
	③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	4回	

(第1回運営部会)		(第2回運営部会)	
令和7年度重点項目	委員意見	事業実績(見込み)	良かった点、課題、次年度展望
1 認知症になっても生活しやすい環境整備を進めるため、チームオレンジ駒形事業等を継続して取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・チームオレンジ駒形事業の3つの事業とは何か。 ・課題としての医療介護専門職としての協働連携はどのように行うのか。 ・チームオレンジ駒形事業の具体的な数字の成果を示すとわかりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームオレンジ駒形事業では計4回会議を開催。「相談」「集う」「理解」を3本柱として取り組みを継続。「理解」では様々な年代に対して認知症サポーター養成講座、ミニ講座を合わせて7回実施し、認知症の理解に繋がっている。「相談」「集う」では各グループに分かれて検討を重ねている。「相談」では、相談先がわかるパンフレットを作成中。年度内にはパンフレット案が完成予定。「集う」では、集える仕組みについて、ターゲットを出かけられない高齢者と定め、議論を重ねている。年間を通じてチーム員自身が積極的に動き、事業が運営されている。 ・田町のふれあいサロンにおいて、認知症のミニ講座を実施。新通学区自治会においても、認知症サポーター養成講座の開催を検討中。 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座はチーム員からのアプローチ、実働にて実施に繋がっている。 ・チーム員の声で目標を立て、計画、実行に移すことができている。我が事としての意識が高まっている。 ・一部参加が難しいメンバーが出てきている。 ・次年度、「相談」はパンフレット配布、「集う」は人が集える何かを開催予定、「理解」は認知症サポーター養成講座、ミニ講座を重ねていく。 ・継続的な認知症サポーター養成講座の開催。
2 ケアマネジャー同士の連携強化や地域で役割が果たせる城西圏域ケアマネ交流会が、安定して運営できるよう支援していく。	ケアマネ交流会の具体的な流れはどうなっているのか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネ交流会として、7月に「災害時BCP」についての研修を開催し、20名のケアマネジャーが参加。10月「ヤングケアラー」研修をこども若者相談センターから講師を招き開催し、21名のケアマネジャーの参加があった。各回2回の担当者による打合せを行い、各研修会終了後にはアンケート実施。アンケート結果を踏まえながら1月末に振り返り、3月には次年度の研修テーマ決めを行う予定。年度当初から企画参画者を募り、会の準備から進行まで、ケアマネジャーが役割を持ち行った。 ・2月末に、ケアマネジャーと民生委員との連携を強化するため、交流会を開催予定。民生委員とケアマネジャーがお互いの役割を知り、顔を合わせる機会としていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域内ケアマネジャーにケアマネ交流会の実施方法が浸透してきている。 ・ケアマネジャーが主体的に動き各研修が実施された。 ・研修参加により、必要な知識が習得された。 ・ケアマネジャー同士の横の繋がりが醸成されてきている。 ・ケアマネ交流会において、居宅以外の参加が少ないため、施設などのケアマネジャー参加が課題。 ・研修にボリュームがあり、時間設定など課題がある。 ・次年度も本年度を踏襲しながら継続的にケアマネ交流会を行っていく。

令和7年度 葵 区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市 葵区 (安西番町) 地域包括支援センター	職員	配置人数(定員: 5 人)(4/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	社会福祉法人 静和会		主任介護 支援専門員	2人	社会福祉士	2人	保健師 看護師等	1人	その他

テーマ: 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】	①自立支援プラン型地域ケア個別会議	4 回	
	②ケース対応型地域ケア個別会議	10 回	(第2回部会 開催時点)
	③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	3 回	

(第1回運営部会)		(第2回運営部会)	
令和7年度重点項目	委員意見	事業実績(見込み)	良かった点、課題、次年度展望
<p>圏域内の介護保険事業所と地域住民等との連携強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自立支援プラン型地域ケア会議で挙げた地域の共通課題について、専門職間で共有し、課題解決に向けて検討する場を作る。 中学生の職場体験や福祉授業を通じ、子供やその保護者世代に対して、年をとることや認知症についての知識の普及啓発を図る。 社会資源マップ作り等を通じ、地域住民と圏域内の介護サービス事業所とが顔の見える関係となるよう支援する。 	<p>病院、スーパーなど身近にあり、住みやすい環境。若い世代の担い手不足はどここの地域でも共通課題。地域のお祭りなどを通して、新しい住民との交流を深められるとよい。</p> <p>歯科医師への勉強会の依頼は大変良いと思う。歯科医師会としても協力したい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自立支援プラン型地域ケア会議を通して口腔機能低下への理解が不十分であることを共通課題とし、1/22に歯科医師による勉強会の開催を予定している。 職場体験に来た中学生に対して紙芝居やカルタを活用して認知症の特性を説明した。又、夏休みに小中学生とその親に対して認知症の知識や関わり方のポイントを伝えた。地域の町内会や老人会、敬老会に対しても劇を通じて詐欺や認知症についての啓発を行った。 社会資源MAP作成に向けてSCと連携しながら地域へ働きかける準備を行っている。 事業所と共にSデイへ参加することで、住民と事業所との繋がりを作ることが出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症理解に関する啓発活動が評価され、今まで繋がりのない地域や組織からも勉強会を依頼する声が多くあった。新たな繋がりをつくることが出来た。 幅広い世代に対して認知症を啓発できた。 生活支援コーディネーターと共に地域住民と圏域内の介護サービス事業所を交え、社会資源マップ作りを継続する。
<p>ケアマネジャー、サービス事業所と協働し、虐待事例に対し適切な対応ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 圏域内の居宅介護支援事業所、サービス事業所等を対象に、高齢者虐待の流れについて再確認する機会をつくり、対応のポイントについて共に学ぶ機会を作る。また、職員自身の言動が権利侵害に当たっていないか、振り返る機会を設ける。 		<ul style="list-style-type: none"> 8月に圏域の居宅介護支援事業所、介護保険サービス事業所に向けて虐待対応研修を実施した。グループワークを通じて早期発見や関係機関との連携等などの対応力向上に繋げることが出来た。 包括内で職員自身が虐待を行わないように研修を実施。今回はストレスチェックを行い、自分自身のストレスの度合いや傾向について改めて確認する機会とした。 	<ul style="list-style-type: none"> 虐待防止研修のねらい(知識と予防の視点を持つ、早期発見や連携、対応力向上等)について達成出来た。 次年度は虐待に限らず、権利擁護の研修について継続実施する。 虐待防止委員会の活動として職員のストレスチェックも継続予定。

令和7年度

葵区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市葵区城東地域包括支援センター	職員	配置人数(定員:5.3人)(4/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	社会福祉法人 静岡市社会福祉協議会		主任介護支援専門員	1人	社会福祉士	2人	保健師 看護師等	2人	その他

テーマ： 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	3回	
②ケース対応型地域ケア個別会議	2回	(第2回部会開催時点)
③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	2回	

(第1回運営部会)		(第2回運営部会)	
令和7年度重点項目	委員意見	事業実績(見込み)	良かった点、課題、次年度展望
1 ①高齢者の不適切な状況の早期発見、予防に努める。 ・権利擁護に関する研修会を開催する ・S型デイサービスやサロン会場で権利擁護、虐待防止の啓発活動を行う	権利擁護の研修はどの範囲まで、行っているかについて	・S型デイと高齢者サロンに静清信用金庫さんの地域貢献事業を活用し、権利擁護に関連して、特殊詐欺予防についての講演を実施。 ・11月に主任ケアマネ連絡会共催で権利擁護に関して、身元保証の勉強会を地域のケアマネ向けに開催を行った。 ・毎月の民児協に参加をし、民生委員さんと情報共有と連携を行った。	・特殊詐欺予防の講演はとても好評。課題は特殊詐欺の内容は変化をしていく所がある。その為、次年度は連携先を増やして、引き続き特殊詐欺予防を行っていく。 ・包括圏域のCMの資質向上につながった。次年度は主任ケアマネ連絡会にて、ケアマネ課題を確認し、引き続きケアマネ支援を行っていく。
2 ②生活課題の解決に向けて、社会資源との協働を進める。 ・生活支援コーディネーターとの定例会議を行い、地域課題を整理し提案する ・主任CM、生活支援コーディネーターと協働して行う社会資源手帳作りのそれぞれの役割を明確にする	生活支援コーディネーターとの地域課題について	・生活支援コーディネーターと月に1回定例会議を行い、介護保険サービス以外の社会資源の情報や活用方法について、情報共有し、提案を行った。 ・社会資源活用(宅配サービス・自費ヘルパーサービス・福祉避難所等)を目的に主任ケアマネ連絡会に生活支援コーディネーターに参加をしてもらい、圏域CM向けに社会資源手帳を作成する事が出来た。	・法人内に生活支援コーディネーターの配置がある為、密な連携を行う事が出来た。次年度も地域課題把握の為、生活支援コーディネーターと連携を行っていく。 ・社会資源活用に向けて、主任ケアマネ連絡会で議題にあがるように働きかけを行っていく。
3 ③認知症を正しく理解し不安や排除のない地域づくりを推進する。 ・認知症の啓発活動の実施 ・夏休みを利用し、児童クラブにて認知症サポーター養成講座を開催する ・S型デイサービスやサロン会場で認知症の啓発活動を行う	認知症の見守りが出来る体制作りとは	・認知症サポート医と連携し、自宅ですべてミーティング(城内・安東)開催。他の自治会の見守り体制について、見守り体制関係自治会の方に参加して頂き、講義をして頂いた。 ・小学生向けに夏休みを利用し、葵・安東小の児童クラブの4年生向けに認知症サポーター養成講座を開催。認知症カルタ等とても好評で、時間内に収まらない位、好評だった。	・他の自治会の見守り体制を聞くことで、参考になる事が多くあった。民生委員が改選の為、継続して開催し、認知症についての理解をすすめていく。 ・児童クラブでは、初開催だったが、とても好評だった。時間内におさまらなかった為、次年度は時間が多くし、学年を変更し、継続していく。

令和7年度 葵区 地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市葵区城東地域包括支援センター(井川圏域)	職員	配置人数(定員:5.3人)(4/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	社会福祉法人 静岡市社会福祉協議会		主任介護支援専門員	1人	社会福祉士	2人	保健師 看護師等	2人	その他

テーマ: 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】	①自立支援プラン型地域ケア個別会議	0回	
	②ケース対応型地域ケア個別会議	0回	(第2回部会 開催時点)
	③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	0回	

(第1回運営部会)		(第2回運営部会)	
令和7年度重点項目	委員意見	事業実績(見込み)	良かった点、課題、次年度展望
1 ①高齢者の不適切な状況の早期発見、予防に努める。 ・井川高齢者生活福祉センター、井川交番と連携していく ・S型デイサービスで権利擁護、虐待防止の啓発活動を行う	・S型デイ参加人数について ・権利擁護の研修はどの範囲まで	・3月に静岡信用金庫さんをS型デイサービスに参加をし、特殊詐欺予防の講演を行う予定。 ・井川交番と井川高齢者生活福祉センターに対して、連携と情報共有を常に行う事で話しを行いました。井川診療所からの情報を頂けるように井川高齢者生活福祉センターと情報共有を行いました。	・井川交番が積極的に詐欺予防の話しを行っている。課題として、違った視点での情報提供が必要と感じている。井川交番と連携し、情報提供の中身を確認し、引き続き早期発見と予防が出来るよう進めていく。 ・井川地区の中で限られた資源の中で、連携がスムーズに行えている。引き続き、連携を続けていく。
2 ②多職種連携により、介護予防の視点を持って支援していく。 ・S型デイサービスに出向き、介護予防の視点から講話を行う		・4月にS型デイサービスに参加をし、保健師によるでんでん体操を実施し、介護予防の視点の講話を行った。 ・6月に自立支援プラン会議に井川地区のケアマネに事例提供を依頼。専門職から頂いた介護予防のアドバイスを地域にフィードバックして頂いた。	S型デイサービスでの介護予防の講話はとても好評だった。地域性はあるが、介護予防の考えはまだ浸透していない。次年度は、S型デイサービスの参加や多職種連携を引き続き行い、介護予防の視点を進めていく。
3			

令和7年度 葵 区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市葵区(伝馬町横内)地域包括支援センター	職員	配置人数(定員: 5 人)(1/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数							
法人名	社会福祉法人静和会		主任介護支援専門員	1人	社会福祉士	3人	保健師 看護師等	1名	その他	人

テーマ: 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】	①自立支援プラン型地域ケア個別会議	4回	
	②ケース対応型地域ケア個別会議	4回	(第2回部会開催時点)
	③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	7回	

(第1回運営部会)		(第2回運営部会)	
令和7年度重点項目	委員意見	事業実績(見込み)	良かった点、課題、次年度展望
1 センターの周知活動 ・広報誌の発行に加え、圏域内の医療・介護の事業者や銀行・薬局・店舗等へのチラシの配架を依頼し、早期にセンターへの相談につながるネットワークを構築する。 ・一般高齢者を対象とした介護予防講座等を開催し、センターの周知と介護予防意識を高めていく。 ・連合自治会や単位自治会の定例会等に参加し、センターの周知や高齢者の実態等情報を発信し、各自治会での高齢者の見守りや支え合いの活動への意識を高めていく。	・場所柄、街中の為、認知症カフェや子ども食堂に行きやすく、かけこまちとの連携も取りやすい環境。 ・ホワイトボードを撮影した記録等の活用がよい。	・広報誌まるだよりを4月7月10月1月4回発行、全戸回覧を実施した。チラシを圏域内の医院・薬局・銀行・郵便局・お店に配架を依頼した。 ・S型デイやサロンにて介護予防や認知症のミニ出張講座を実施、てんよこ健康フェアの開催を通じて予防啓発と周知活動を実施した。 ・横内地区各種団体研修会、横内地区社協との認知症勉強会、地域防災訓練での出張講座等への参加を通じて自治会長等にセンターの周知と横内地区の高齢者の実態を情報発信を行った。 ・民生委員不在地区の東町・栄町・日出町の75歳以上の独居または高齢世帯の住民アンケートを実施中。ニーズ調査と包括周知を実施中。	・広報誌を毎号楽しみにしてくれている住民がいる。 ・銀行・薬局・郵便局との顔の見える関係づくりが出来、相談で連携する機会が増えた。 ・引き続き自治会長へのセンターの周知活動を継続して行く、自治会は防災に対する関心が高い。
2 多職種による地域支援ネットワークの構築 ・圏域内主任ケアマネと企画研修会議を行い、事例検討会や医療と介護の連携のための会議を企画していく。 ・伝馬町横内地区施設連絡会と共同して住民向けの認知症理解普及活動を地区社協と協働しながら企画していく。 ・ケアマネ、民生委員、事業者を対象に身寄りの無い人の支援や精神疾患を持つ方の対応の仕方等の研修会を企画していく。 ・地域資源マップのアップデートに主任ケアマネや社協生活支援コーディネーターと協働して取り組む。	・多職種連携に協力したい専門職団体は多い。	・圏域内居宅と連携、かげやま医院との医療と介護の連携研修会(9/26)、新任ケアマネ予防プラン研修会(7/10)を協働した。また城西・城東・安西番町包括と静岡ケアネット協会と共催で風水害のBCP訓練(マイタイムライン作成と他事業所との情報共有)を行った。 ・圏域内居宅と広域合同虐待防止検討委員会を実施した。 ・民生委員、ケアマネ、介護事業所対象の精神疾患の研修(6/30)を実施した。 ・地域資源マップについて関係者にアンケートを実施 ・個別ケア会議からの区域を超えた多職種連携チームを結成、長期困難ケースが解決の方向に移行した。	・多職種連携に対するケアマネや事業者の関心は高く、引き続き圏域の主任ケアマネと研修を企画していく。 ・地域資源マップについてはアンケートの結果を踏まえ、今後の改訂をどうしていくか関係者で協議する。 ・個別の地域ケア会議の開催によりより支援力のあるケアチームを立ち上げていく。
3 地域の支え合い活動の推進 ・伝馬町学区では高齢者の居場所や地域の見守り活動等、民児協や自治会との支え合い活動の推進について生活支援コーディネーターと連携し地域ケア会議等を実施していく。 ・横内学区では認知症をテーマに自治会、地区社協と協働し住民を対象とした勉強会を企画していく。 ・両地区とも、S型やサロンの縮小傾向があるため、運営者の支援や新たな居場所づくりを模索していく。	・民生委員のいない地区の自治会と協力し情報交換を密にする。 ・伝馬町学区に地区社協をつくり福祉に対する啓蒙を深める。	・伝馬町民児協と地域の支え合いをテーマに2回地域ケア会議を開催した。横内地区社協と認知症をテーマに勉強会を開催、自治会長、Sボラ、民生委員、ケアマネとで意見交換を実施した。 ・生活支援コーディネーターとは毎月情報交換会を実施 ・地域のサロンと静岡学園茶道部との交流会を企画、世代間交流を行った。横内小児童で認知症講座を実施、東中学校の福祉教育にて支え合いの出張講座を実施した。	・民児協の改選で多くの民生委員が変更し欠員地区も増えた、来年度は新人民生委員との連携を深めていく。 ・横内学区では連合自治会と社協を中心に、伝馬町学区は民生委員と支え合い活動について協議していく。 ・福祉教育や世代間交流は生活支援コーディネーターや教育機関と連携しながら今後も取り組んでいく。

令和7年度		葵区地域包括支援センター運営部会							
事業所名	静岡市 葵区 (城北) 地域包括支援センター	職員	配置人数(定員: 7人)(R8. 1/30現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	社会福祉法人 駿府葵会		主任介護 支援専門員	1人	社会福祉士	4人	保健師 看護師等	2人	その他
テーマ: 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題									
『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。									

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	4回	
②ケース対応型地域ケア個別会議	1回	(第2回部会 開催時点)
③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	回	

(第1回運営部会)		(第2回運営部会)	
令和7年度重点項目	委員意見	事業実績(見込み)	良かった点、課題、次年度展望
1 地域での見守り体制を整え、地域での対応力を強化する取り組みをしていく。消費者被害の早期発見と未然に防ぐ地域づくりを行う。		消費生活センターによる、地域住民向けの講演会、静岡中央署と消費生活センターによる圏域ケアマネやサービス事業所向けの研修会を開催し、被害防止や事後の対応についての知見の後方に務めた。 また、S型デイや民児協においては、包括職員による注意喚起を行った。	良かった点:地域の高齢者を守るために、まずケアマネが知識を持つ必要が有ることに気づき、ケアマネ主体で研修会の開催が出来た。 課題と展望:今年度は地域住民、ケアマネ、サービス事業所と個々への働きかけであり、今後は地域としての見守り体制を構築していくための取り組みを行っていきたい。
2 圏域内ケアマネジャーの資質向上と後方支援、多職種との連携を強化する。	・各地域において連携を目的とした研修会等に医師の参加が消極的である背景があるが、声掛け等をぜひ継続していただきたい。 ・静岡市ケアマネット協会がパンフレット「ケアマネジャーのトリセツ」を作成したため、周知に協力していただきたい。	圏域内の主任ケアマネとの協働により、今年度2回研修会を開催した。また、包括独自でもケアマネ向けの研修会を、圏域のサービス事業所や薬局など多職種連携を目的に研修会を開催した。困難事例に対しては、地域ケア会議の開催、支援者会議、重層的支援会議などにかけることで、ケアマネへの支援を行った。	良かった点:自立支援プラン型地域ケア個別会議において、圏域内の専門職に参加してもらうことで、圏域内との連携を図ることができた。 課題と展望:医師や歯科医との顔の見え関係性を構築する取り組みを行っていきたい。
3 地域包括支援センターの機能を周知、介護予防の普及・啓発を強化する。認知症をオープンにできる地域づくりを行う。	・「認知症をオープンにできる」はとてもインパクトがある。認知症のことは多くの人が知っている。今後、人々が助け合っていけるような地域になればよい。	地区社協、民児協、S型デイ、シニア倶楽部等での包括の周知、介護予防や認知症に対する普及や、麻機地区では企業とコラボすることで、集客を図り出張相談会を2回開催した。 麻機地区の子育てサロンや、地域や企業のイベントに参加し子育て世代や地域住民への包括や認知症予防についての周知活動を行った。 アロマ関連の資格を持つ職員による、アロマオイルを用いた認知症予防効果について情報提供と香り体験を各S型デイやサロンで行った。	良かった点:アロマを取り入れることで、子育て世代にも認知症予防に関心を持ってもらうことができた。 S型などで認知症に対する予防についての興味や関心が高まったようで、開催者から認知症予防についての依頼が入るようになった。 課題・展望:小学生や子育て世代への認知症の情報提供の場を設けたい。 S型デイやサロンのボランティアや運営者に対して、継続した勉強会の実施を検討する。

令和7年度 葵 区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市葵区（千代田）地域包括支援センター	職員	配置人数(定員： 6人)(4/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	社会福祉法人 静和会		主任介護 支援専門員	2人	社会福祉士	3人	保健師 看護師等	1人	その他

テーマ： 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】	①自立支援プラン型地域ケア個別会議	3回	
	②ケース対応型地域ケア個別会議	3回	(第2回部会 開催時点)
	③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	3回	

(第1回運営部会)		(第2回運営部会)	
令和7年度重点項目	委員意見	事業実績(見込み)	良かった点、課題、次年度展望
1 ①包括周知活動 広報誌の組回覧や小学校に対し広報誌を配布し地域包括の周知を図る。	・包括周知のほかに、もの忘れ険峻など認知症の事も周知してほしい。	・年4回、組回覧にて包括の広報誌を配布。 ・小学校では、4年生(120名)の福祉授業やお祭り時に、漫画で高齢者理解と包括の役割等書かれたチラシを配布。 ・病院等にもパンフレットを置かせてもらい、相談にも繋がっている。 ・東部生涯学習センターのお祭りに、包括周知の為関係機関の協力を得て出店。(認知症疑似体験や歩行測定等) ・毎月6力所のS型デイに参加。広報誌配布や健康・物忘れ等に関する情報提供を行う。	・幅広い年齢層に包括を知っていただく為に、広報誌には4コマ漫画を作成したり住民に対してインタビューや作品募集を行い掲載。広報誌作成の過程で地域と関わる機会を作ることができた点良かった。 ・漫画をメインとした小学校向けの広報誌も作成し、学校のお祭り・福祉授業でも配布。子供や親世代にも周知活動する事ができた。次年度の展望として、介護や福祉に接する機会のない世代への情報発信が課題。 ・病院などからの新規相談も増加している一方、住所が圏域外のケースもあるため、圏域ごと担当がある事の説明も必要に感じた。 ・SNSやホームページの充実を継続。
2 ②上土団地アンケート実施 立替する団地に対し、アウトリーチを行い現状把握や困っている高齢者に対し相談対応につなげる。	・アンケート調査については、他の包括にもやり方を聞きながら工夫して行ってほしい。	・7月～1月にかけて、上土団地(市営・県営)全20棟(305世帯)のアンケートを実施。不在時には日を改めて再度訪問した。 訪問をきっかけに介護保険申請やS型デイサービス等に繋がるケースもあった。	・訪問時、「包括は知っていたけどなかなか相談できなかった。」「元氣だが相談先が分からず不安だった」等お話があり、アウトリーチを行ったことにより包括周知や介護保険相談等に繋がる事が出来良かった。 ・今後の課題として、上土団地のある地域の高齢化率が42%に対し民生委員が不在地域。今後、民生委員が不在なことにより、相談先が分からず支援介入が遅れるケースが懸念される。継続的な関係構築が必要。 ・地域を変えて出張相談会等も検討したい。
3 ③権利擁護研修(消費者被害・身元保証等) 前年度、消費者被害が何件か発生したこともあり研修を企画し実施する。	・終活研修はどこでいつ行うのか？	当初、消費者被害関係で研修企画をしていたが、住民アンケートで「終活」について知りたい希望が多く、テーマ変更してR7年12月に東部生涯学習センターにて実施。 安心感がある温かい社会推進課に講師を依頼。定員30名で募集したが46名の参加者があった。参加者の年代では、80代が一番多く、次いで70代だった。	・想定以上の参加者があり、関心の高いテーマと改めて実感できた。今後の課題としては、もう少し若い世代(退職後位)にも興味を持ってもらい参加を増やしていきたい。 ・アンケート等の意見では、空き家対策、デジタル終活、身元保証や後見制度など、具体的なテーマ開催の要望意見が多数あった。次年度に活かしていきたい。

令和7年度 葵区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市 葵区（長尾川）地域包括支援センター	職員	配置人数(定員：6人)(4/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	社会福祉法人 天心会		主任介護支援専門員	1人	社会福祉士	3人	保健師 看護師等	1人	その他

テーマ：地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】	①自立支援プラン型地域ケア個別会議	3回	(第2回部会 開催時点)
	②ケース対応型地域ケア個別会議	1回	
	③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	2回	

(第1回運営部会)		(第2回運営部会)	
令和7年度重点項目	委員意見	事業実績(見込み)	良かった点、課題、次年度展望
1 西奈・西奈南両地区の民生児童委員を対象に、『在宅から施設まで』をテーマに、複合介護施設の見学と介護保険の仕組みや利用の流れについての座学を、地域ケア会議として開催し、知識向上を図る。	鈴木委員 西奈・西奈南・北沼上の3地区それぞれの環境が違う。住民組織とは具体的な対象者は？ 民生委員と包括は密接している。 自治会の意識が薄いため自治会へのアピールをお願いしたい。 中野委員 包括から歯科に対する要望は、支援者に対してなのか高齢者になるのか対象者は誰になるのか？ 歯科はオーラルフレイルに力を入れている。	9/1に西奈南民生児童委員を、9/24に西奈民生児童委員を対象として、「在宅から施設まで」をテーマとした複合介護施設の見学および介護保険の仕組み・利用方法に関する座学を、地域ケア会議の枠組みで実施した。	・施設見学および施設で提供される食事の試食をプログラムに含めたことで、参加者の関心と意欲の向上が感じられた。 ・「施設入所について質問されることが多く、料金体系や食事内容などを知ることができ、今後の活動に役立つ」との声が実施後のアンケートで挙がった。 ・研修会形式としたことが参加者の理解度向上に繋がったと感じている。今後も継続的に勉強会の開催を検討する。
2 S型デイサービスへ参加し、会員及びボランティアスタッフを対象に「認知症予防」又は「虐待防止」をテーマに勉強会を開催する。参加者に興味を持たせて周知することを目的に、包括職員による寸劇形式で実施する。	木村委員 事例検討について一緒に検討出来るのか？どこから一緒に民生委員と行うのか？ 具体的に事例を伝える時は丁寧に対応して欲しい。 民生委員と包括がパートナーとして関係を作って欲しい。 資源マップの進捗状況についてどうなっているのか？ 全て網羅することは難しいと思うため、目的をもって長く使えるマップを作って欲しい。	S型デイサービスにおいて、認知症予防を目的として「認知症グレーゾーン(軽度認知障害/MCI)からのUターン」をテーマとする講座を開催した。	・S型デイサービスの特に会員には軽度認知障害(MCI)レベルの方が多くことから本テーマを選定したが、寸劇の導入が困難であったため講義形式での実施となった。 ・ボランティアスタッフの関心は高かったが、主たる対象である会員の更なる興味喚起を図るには、寸劇や他の効果的なアプローチの検討が必要であると感じた。
3 R2年度作成の地域資源マップのアップデートに向け、生活支援コーディネーターやコミュニティソーシャルワーカーなどを中心としたチーム編成の準備に取り掛かる。 新たに担当となる生活支援コーディネーターと連携を図る。	浦田委員 特になし。	新任の生活支援コーディネーターとは地縁組織や地域関係機関の会議参加時に意見交換を重ねており、円滑な協力体制の構築が進展している。	・西奈地区および西奈南地区の地区社会福祉協議会との連携強化を目的として、地域資源マップの更新作業への参画について慎重かつ詳細に説明を行った。進捗には時間を要したが、生活支援コーディネーターの協力を得て着実に前進した。 来年度は、両地区に作成メンバーとして参画いただき、マップ更新作業に着手する。

令和7年度 葵区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市葵区（美和）地域包括支援センター	職員	配置人数(定員：4人)(4/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数							
法人名	社会福祉法人 楽寿会		主任介護 支援専門員	1人	社会福祉士	1人	保健師 看護師等	1人	その他	1人

テーマ：地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】	①自立支援プラン型地域ケア個別会議	3回	(第2回部会 開催時点)
	②ケース対応型地域ケア個別会議	0回	
	③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	0回	

(第1回運営部会)		(第2回運営部会)	
令和7年度重点項目	委員意見	事業実績(見込み)	良かった点、課題、次年度展望
1 地域から頼りになる相談窓口としての機能を果たす。 1)高齢者の相談を受け止め、適切な支援に繋げる。	・認知症は予防についての実施か。高齢者自身のセルフ、連合的スティグマについての話題にするとより親近感が湧くのでは。 ・小・中学校へ認知症の啓発は？ ・既存のネットワークに歯科医の関与があるか。オーラルケアは自治会でもうけが良い。地域に出向くこともしているので、気軽に相談してほしい。	介護保険関係の相談が多いものの、8050問題や重層的整備事業対象ケース、障害福祉分野に関する相談が増えている。多問題や複雑化しているため、多職種連携で検討を重ね、解決までに時間を要する。長期に渡る対応が必要になっている。	多職種連携によりそれぞれの役割を共有・理解し、ネットワークを活かした支援が出来た。このネットワークを活かし、他の個別課題ケースの取り組みや地域課題の課題解決に活かしていく。
2 地域から頼りになる相談窓口としての機能を果たす。 2)安倍口団地福祉の相談会の運営、実施する。	・3地区(安倍口・美和・足久保小学区)ともに違う問題点を抱えて大変です。 ・安倍口団地の民生委員、自治会、包括と連絡を密にし福祉の体制をしっかりと構築する。	6/3、8/5、10/7、12/2、2/3の計5回開催済み。開催チラシを各関係機関、地域の医療機関、薬局、金融機関に配架し、周知活動を行った。各関係機関とも連携、相談ができる関係になり、相談に対して複数の機関が関わり支援を検討することができた。担当民生委員、まちづくり公社の担当者が毎回顔を出して協力してくれた。	障害福祉の関係機関に体制の見直しがあり、今までのように委託相談2事業所の参加が難しくなる見込み。来年度は、委託相談機関を1事業所で対応する。また、8月暑さ厳しい時期は相談会は開催せず、支援者連携会議(圏域ケア会議)を開催する予定。
3 医療介護関係者との既存のネットワークを生かし、地域支援を行う。 1)圏域ケア会議の開催地区を選定し、地域支援を検討する。	・地域づくり会議等に歯科医師の参加を検討したい。 ・S型デイサービスの事業継続が難しい。どこの地域でも担い手が不足している。 ・手を挙げてくれた人(地域活動にやる気のある人)が負担がかかり過ぎない配慮をお願いしたい。	内牧地区で地域ケア会議の検討をしたが、高齢者の集まりの場をやりたいという提案者一人(自治会役員)での動きのため、地域ケア会議を開催する規模ではなかった。提案者と町内へ出向きニーズ調査をする。高齢者の意見を元に今後の進め方について一緒に検討することができた。	町内へニーズ調査が出来たことは良かった。そこから、提案者と集まり場をどう仕掛けていこうか一緒に検討することができた。この経過や調査内容を生かし、来年度計画的に高齢者の集まりの場が実現できるよう後方支援を進めていく。

令和7年度		葵区地域包括支援センター運営部会								
事業所名	静岡市葵区（賤機）地域包括支援センター	職員	配置人数(定員： 6人)(4/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数							
法人名	社会福祉法人 楽寿会		主任介護 支援専門員	1人	社会福祉士	2人	保健師 看護師等	1人	その他	1人
テーマ： 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題										
『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。										

【地域ケア会議実施状況】	①自立支援プラン型地域ケア個別会議	3回	
	②ケース対応型地域ケア個別会議	4回	(第2回部会 開催時点)
	③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	2回	

(第1回運営部会)		(第2回運営部会)	
令和7年度重点項目	委員意見	事業実績(見込み)	良かった点、課題、次年度展望
1 虐待や消費者被害について地域住民に 地域の見守り体制の充実を図る ・地域に全体に向け消費者被害の勉強会を開催する ・「まるけあ賤機」により地域に啓発する ・S型デイや交流会等で消費者被害防止に向けた普及を行う	・R6実施状況に、賤機南小学校向け認知症ジュニアサポーター講座の働きかけを行ったとあるが、実際に講座を行ったのか。 ・R7の取り組みに圏域小学校向けに働きかけを行うとあるが、関わりの実績があつての働きかけか？ 小学生で行ったのであれば中学校でも行えば、ステップアップ、地域づくりにもなる。中学校へ働きかけを行うのもいかがでしょうか。	S型デイや交流会等で虐待や消費者被害防止に向け「まるけあ賤機」等を用いてミニ講座により啓発を行った。また10/29には居宅介護支援事業所、民生委員を対象に「消費者被害から地域を守る」と題し、消費生活センター出前講座を行った。この勉強会がきっかけとなり、1/29にはS型ボランティアの研修会でも開催。小中学校での認知症サポーター養成講座は「まるけあ賤機」の配布がきっかけで令和5年に実施、令和6年、7年は認知症高齢者を含めた高齢者の身体的特徴など「歳をとるってどういうこと？」と題し、クイズなどを使って説明した。	消費者被害の講座にケアマネだけでなく民生委員に参加してもらったことで、地域で広く伝えていこうという意識が高まった。来年度も年々巧妙になっていく消費者被害の状況と対策を地域に伝えていく。 小中学校に配布している「まるけあ賤機」は好評であり、「まるけあ賤機」を今後継続していくにはどうしたらよいかは今後検討していく。
2 高齢者支援に関わる圏域ケアマネジャーと 包括職員の資質の向上を目指す ・個別ケースにおいて積極的にケア会議を開催する ・北部圏域居宅対象に美和・安倍包括合同の勉強会を開催する(くらし仕事センターについて 7/16予定) ・賤機圏域居宅対象に勉強会を開催する (圏域内医療機関による講座、大地震BCP机上訓練)	・居宅事業所訪問はうれしいし、研修会の内容は？	7/16北部地域居宅介護支援事業所を対象に北部地域高齢者支援連絡会勉強会「暮らし・しごと相談支援センターの業務と関係機関の連携について」の勉強会を行った。(美和・安倍包括共催) また消費者被害の勉強会、11/27には圏域の医師を講師に招き「緊急時の対応について」講義とグループワークを行った。訪問時、緊急性を察知できるかなど、それぞれ今後の活動に生かせるとの意見が多かった。 でいまっつと地域の社会資源マップの見直しを行い、居宅に配布した。	圏域の居宅介護事業所との関係は良好であり勉強会についても多くの出席がある。 来年度も美和包括・安倍包括合同で北部地域のケアマネとの勉強会を開催予定。 また医療との連携は高齢者支援において有効であることから来年度も賤機圏域内診療所へ講師の依頼を考えている。今年度の終了時には、ケアマネからの意見をもとに来年度の計画を立てていく。
3 関係機関と連携し地域課題解決のための会議を開催する ・生活支援コーディネーターと連携を図り、地域の実情についての情報を収集し、課題解決のための地域ケア会議を開催する	・包括と事業所それぞれの目的・役割の違いはそれぞれ理解されているのか？ ・井宮の地域ケア会議の成功体験を活かしてほしい。 ・S型デイのボランティアスタッフの参加(特に若者)ははどうしていくのか？	個別ケースについては必要に応じ地域ケア会議を開催。また市社協と地区社協と賤機包括共催で地域ケア会議を開催した。賤機南地域は「災害時、自分たちに何が出来るか、減災につなぐ地域の力について」、井宮地域ケア会議は情報交換会として地域住民が広く参加できる取り組みを話し合った。それぞれ活発な意見が出され、医療、福祉、介護の関係者、関係機関、地域の関係者と良好な連携に繋がった。	井宮地区では昨年から会議を実施。地域地域住民が広く参加できる取り組みについて意見交換を行った。安心して暮らせる井宮地区へ来年度の取り組みを検討。賤機南では防災について自助、互助、公助それぞれではなく、連携が重要である。それぞれの役割について共有していくことを確認した。賤機南地区社協、井宮北地区社協に対しても生活支援コーディネーターと連携し地域の未来を考えるケア会議を開催していきたいと考える。

令和7年度		葵区地域包括支援センター運営部会							
事業所名	静岡市葵区（安倍）地域包括支援センター	職員	配置人数(定員： 3 人)(4/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	社会福祉法人 楽寿会		主任介護支援専門員	1人	社会福祉士	1人	保健師 看護師等	1人	その他
テーマ： 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題									
『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。									

【地域ケア会議実施状況】

①自立支援プラン型地域ケア個別会議	2回	(第2回部会 開催時点)
②ケース対応型地域ケア個別会議	5回	
③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	1回	

(第1回運営部会)		(第2回運営部会)	
令和7年度重点項目	委員意見	事業実績(見込み)	良かった点、課題、次年度展望
1 関係機関、地域の関係者と連携を図り、高齢者の状況や変化に応じたケアマネジメントの体制を整える。 ・地区活動に参加し、高齢者と集落等の地区の状況を把握し関係者との連携を強化する。 ・ケア会議を開催し地区の状況に応じたケアマネジメントの体制を整える。(集落毎の小さい単位で会議を行う) ・集落支援員、北部保健福祉センターと随時支援の情報共有を行い支援の検討をする。		・地区で開催された活動(S型デイ、交流会等)に毎回参加し高齢者と地区(集落)の状況を把握した。 ・地区の関係者との連携が強化された。 ・梅ヶ島、大河内、玉川の集落支援員、保健センター保健師と随時、地区やケースの情報共有を行った。 ・プラン型ケア会議(R7.6/19:玉川)(R7.10/23:牛妻) 個別ケア会議(5ケース)圏域ケア会議(R8.1月29日:大河内平野) 北部地域高齢者支援連絡会勉強会(R7.7/16)	地区の活動に参加する事で地区の関係者と顔の見える関係が強化された。参加者も含め、気軽に相談できる体制が整い相談が増えている。集落支援員、保健センターとの連携が強化され支援がスムーズに行える様になっている。プラン型会議は次年度も地区を選定して実施していく。(地区を知ってもらう事で適切なアドバイスがもらえる)山間地の包括と情報交換予定。
2 認知症の理解を深め、認知症高齢者への支援体制を整える。 ・認知症サポーター養成講座、認知症に関する講座等を開催する。	・山間地で限られた資源の中で認知症サポーター養成講座に積極的に取り組んでおり、高齢化率50%という世界で頑張っていると思う。外に発表して頂きたいと思う。もう遠くないが将来の日本の姿と思われる。 ・認知症サポーター養成講座等、全て実施は可能なのか。スケジュールが出来てすごい。	・認知症サポーター養成講座を開催。 R7.6/13:油山 R7.10/24:俵沢 R8.3/17:牛妻で開催予定 ・玉川地区は連合自治会長と検討していたが、自治会の都合で開催できず。 ・介護予防教室では認知症についての話をしている。	認知症になっても、住み慣れた山間地で生活できる様に見守り体制を整える事ができた。高齢者だけでなく、住民にも認知症を理解してもらおうよう、次年度も認知症サポーター養成講座を開催していく。玉川、大河内、松野地区より要望がある為、次年度の課題として検討していく。
3 包括支援センターの周知活動を継続し、介護予防、虐待、消費者被害等の啓発を行う。 ・S型デイ、交流会等の地区活動に参加し、包括の周知活動や介護予防等の啓発を継続する。 ・活動のない地区への支援を検討する。	・地区活動のない地域への後方支援。 ・お寺も社会資源になる。お寺の事は良いと思った。	・交流会等、居場所作りの後方支援を行った。 音楽療法実施(R7.4/3賤機中ささご)(4/25油山)(5/23賤機北俵沢)(6/10松野)(9/9有東木)(12/12賤機北野田平)(R8.3/24渡で開催予定) 体操実施(R7.9/12油山)(10/14松野)(11/25渡)(R8.1/23賤機北油島予定) ・お寺より依頼あり介護予防教室を開催。 菜流寺(R7.8/9:体操) 秘在寺(R7.8/10:音楽療法)	S型、交流会等の参加者が知人等に包括を紹介してくれる等、横の繋がりが出来ている。地区活動(S型、交流会等)に参加し、包括の周知、介護予防、消費者被害等の啓発活動を次年度も継続していく。お寺より依頼があり、次年度も介護予防教室を開催予定。菜流寺(R8.8/9)秘在寺(R8.8/10)

令和7年度 葵区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市葵区（服織）地域包括支援センター	職員	配置人数(定員： 5 人)(4/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	社会福祉法人駿河会		主任介護 支援専門員	2人	社会福祉士	2人	保健師 看護師等	2人	その他

テーマ： 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】	①自立支援プラン型地域ケア個別会議	4回	
	②ケース対応型地域ケア個別会議	1回	(第2回部会 開催時点)
	③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	6回	

(第1回運営部会)		(第2回運営部会)	
令和7年度重点項目	委員意見	事業実績(見込み)	良かった点、課題、次年度展望
1 地域リハビリテーションの考えを広める。 ・服織地区で地域リハビリテーションについての地域ケア会議を開催する。 ・服織西地区の高齢者の集まりへのリハビリ専門職派遣事業に参加協力する。	・地域ケア会議に歯科医も参加したい。 ・会議で明らかになった問題点を明らかにして具体化する。 ・民生委員、自治会との連携がより必要。	・11/26 主任介護支援専門員と協働し、服織地区で地域ケア会議を開催した。民生委員、介護支援専門員、薬剤師、歯科衛生士、介護事業所、生活支援コーディネーター、地区社協、地域住民等の参加があり、地域リハビリと地域資源等の意見交換を行った。 ・地区社協、リハビリ専門職、生活支援コーディネーターと協働して、服織西地区の高齢者の集まり(4か所5回)へリハビリ専門職を派遣した。	・地域のボランティアの参加があり、地域の活動等についても活発に意見交換ができた。参加者が地域リハビリについて理解を深めるとともに関係づくりにつながった。 ・地区社協から次年度も継続したいとの意向があった。服織西地区へのリハビリ職派遣に引き続き協力する。
2 グループホーム連絡会を開催し連携を図る。 ・薬科包括と協働で、グループホーム連絡会を開催する。 ・地域に向けた支援の視点を持って話し合いを行う。		・薬科包括と協働で、7/18 第1回グループホーム連絡会を開催し、地域に向けた活動や運営等の情報交換を行い、関係を深めた。2/13 第2回グループホーム連絡会を開催する予定。	・グループホーム間で、運営・防災・求人などについて情報交換ができた。連絡会以外でも連絡を取り合うグループホームもあり、繋がりができた。 ・次年度は連絡会の運営をグループホームと一緒にを行い、いずれ引き継ぐことを考えている。また、地域に向けての発信など、何ができるかを話し合う予定。
3			

令和7年度 葵区地域包括支援センター運営部会

事業所名	静岡市葵区（藁科）地域包括支援センター	職員	配置人数(定員： 3 人)(4/1現在) ※定員・・・本来の配置基準で必要とされる人数						
法人名	社会福祉法人駿河会		主任介護 支援専門員	1 人	社会福祉士	1 人	保健師 看護師等	1 人	その他

テーマ： 地域におけるネットワークの活用に関する地域包括支援センターの取り組みとその結果、今後の課題

『住み慣れた地域で生きがいを持ち、自分らしく暮らすことができるよう地域の特性に応じた「地域包括ケアシステム」の構築を実現すること』を目指し、これまで地域包括支援センターが築いてきたネットワークを活用し、「地域ケア会議」等を開催していく。「地域ケア会議」等の開催を通じ、介護支援専門員や地域住民とのネットワークを活かした個別ケース課題の解決を目指すとともに、個別ケース課題の解決を出発点とした地域課題の把握、地域での課題解決、あるいは地域では解決困難な課題等を集約していく。

【地域ケア会議実施状況】	①自立支援プラン型地域ケア個別会議	3回	
	②ケース対応型地域ケア個別会議	1回	(第2回部会 開催時点)
	③地域ネットワーク形成等(①・②以外)にかかる地域ケア会議	4回	

	(第1回運営部会)	(第2回運営部会)	
	令和7年度重点項目	委員意見	事業実績(見込み) 良かった点、課題、次年度展望
1	日常生活に支障のない高齢者や今後包括支援センターとの関わりが想定される60代の方々への情報発信を強化する。		1-1,5月に包括支援センターのチラシ、10月に広報紙を全戸配布した。 1-2、比較的若い世代が参加する中藁科地区社協・清沢地区社協の会議に参加し、地域の方と関わる機会が増えた。
2	民生委員、地域住民、社会資源など、地域における見守りの目となる機関や人々との連携を強化する。	・地域とのつながりが非常につよくうらやましい。 ・包括支援センター、自治体、民生委員との連携を更に密にし、地域全体で福祉を考える方向を更に進めてもらいたい。 ・多職種連携の地域ケア会議があるなら、歯科医を参加させたい。	・定期的に民生委員・保健福祉センター・駐在所 集落支援員・生活支援コーディネーター等と定期的な情報交換を行った。また、地区社協の移動支援会議にも継続参加した。 ・日頃から頻りに顔を合わせる関係性が築けているため必要時、連携がスムーズに行えた。 (良かった点)
3	若い世代へ認知症の正しい理解を広める。		・10月に小学校3,4年生を対象に認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の周知に努めた。 ・認知症についてのチラシを全戸配布した。 ・「認知症の方の見守り」についてR8、2月に連合町内会、医療・介護の専門職が参加し、自宅でずっとミーティングを開催予定。